

2023年度(令和5年度)ある

【放課後等デイサービス】事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年3月1日

事業所名 ある

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	1	1	3	中高生向けで身体が大きい児童が多いが、席配置や椅子などでスペースの活用を工夫している。	利用人数によって席の配置を考え、パーソナルスペースを確保できるように工夫している。
	2 職員の配置数は適切である		2	3		活動内容や職員の立ち位置なども打合せをして、利用人数が多い時の支援の仕方も見直しながら取り組んでいく。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	1	2	2	階段昇降時は指導員を配置、声かけで安全に配慮している。	外階段があるので、昇り降りする時は万が一を考えて1人ずつ使用するように職員が見守りながら行っている。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	1		ミーティングは毎日行ない、その日の活動だけでなく、児童対応についても協議している。	日々振り返りを行い、その日の気になったところを共有し、改善する方法を考え翌日に活かせるようにしている。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	2	3		アンケートを基に会議などで改善を図るようにしていく。	保護者からのアンケートをまとめて、職員全員で共有して課題を洗い出し、改善に努めます。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	1	4		会社HPで公表している	職員会議等で公開を周知し、職員も確認できるようにします。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		5		未実施	今後第三者評価を入れるかどうかについても検討していく。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5			草加市内の障害児通所支援施設連絡会で毎年職員向けレベルアップ研修を年間で実施しているので、それに参加している。	施設内の研修の他に草加市や足立区の研修にも参加し、職員のスキルアップを目指していく。
9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4	1		通所開始時に詳細なアセスメントをとり、それをもとに計画をたてるようにしている。	利用開始時は勿論、半年に一度の個別支援計画書の更新時にモニタリングを行い、ニーズや課題の見直ししている。	
10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	1		日常生活だけでなく、健康状態、学校生活、得意不得意などの内容についても記入してもらえ内容のシートを使用している。	標準化されたアセスメントシートを活用しているが、今後は自社開発アプリによるアセスメントツールの使用も検討している。	
11 活動プログラムの立案をチームで行っている	5			活動プログラムの立案は毎月の会議ごとに非常勤職員も一緒に考えている	作業活動・SSTを週ごとに行うために、会議や打合せで職員全員で計画を立てている。	

2023年度(令和5年度)あある

【放課後等デイサービス】事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年3月1日

事業所名 あある

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
適切な 支援の 提供	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5			週間ごとに活動内容を変えている。	実際に活動をやってみて、「次はこんな方法でやってみよう」という提案を出し合いながら考えている。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5			平日はSST、作業活動を隔週で行ない、休日は公園などでも身体を動かす機会を設け、就労と連携して模擬実習のように大人に混じって作業をする機会を設けている。	平日、休日、長期休暇で課題を分けていないが、長期休暇でしか出来ない就労体験や見学を企画して、ああるのコンセプトである就労準備ができるように支援している。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5			集団活動がメインであるが個々が抱える課題に応じて計画を立てている。	基本は集団活動としているが、その日の状態によって子どもと職員が相談して個別活動で過ごす場合もある。情緒のコントロールを課題としている子は、特に集団活動に参加できるよりも、自分の状態を理解し落ち着いて過ごす方法を知る事を大切に支援している。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	1		連絡ノートでの共有と時間が取れる取れる時は入念にミーティングをしている。	毎日必ず打合せをして、その日を分担を表に記して分かりやすくしている。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5			送迎の関係で全員では行なえないこともあるが、残った職員が連絡ノートで申し送りを残しておくようにしている。	毎日振り返りを実施している。その日の活動について、良い点と改善すべき点を話し合っ引継ぎノートに書いて共有している。子どもについても、良い変化と気になった点を共有して、次回利用時の支援に活かせるようにしている。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	1		経過記録は日々残しており、支援計画更新時に利用している。	日々の様子は経過記録に記しているが、振り返りの時に話し合っ共有している。振り返りで出た意見はノートに記して、全職員が確認できるようにしている。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4	1		毎月1回の会議でケース会議を実践し、支援計画の更新に役立てている。	毎月1回会議を行い、それぞれの支援目標に対しての現状を確認して支援方法を見直している。個別支援計画書は半年に1回、保護者様と面談をして目標の見直しをして、職員との策定会議後に更新している。
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	3	2		就労特化型を主としているため、総則に則った活動全てを取り入れているわけではないが、創作活動や運動の機会などは設けている。	基本活動を複数組み合わせで行っているが、パート職員はガイドラインを理解していない者もいるので、ガイドラインについての勉強会も行っていきたい。

2023年度(令和5年度)あある

【放課後等デイサービス】事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年3月1日

事業所名 あある

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3	2		担当者会議は基本的には児童発達支援管理責任者が参加をしており、会議前には最近の状況等を職員と確認している。	担当者会議には、管理者・児童発達支援管理責任者が出席している。
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4	1		送迎時に申し送り等を受け、職員間や保護者への共有をしている。	年間計画や下校時間は、学校との共有ではなく保護者様に教えてもらっている。またはホームページで確認している。変わった様子があった時は担任の先生に電話をして、情報共有させてもらっている。
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		4	1	非該当	受け入れをしていません。
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	1	3	1	非該当	利用対象が中高生の就労準備型デイのため、児童発達支援事業所との連携がありません。
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2	3		全てではないが、提供できるよう努めている。	同じグループの生活介護や就労支援継続B型へ移行する場合は会議を行い情報共有を行っている。
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	2		相談支援事業所との連携は行なっているが、専門機関とは専門的研修等を通じている程度に留まっている。	研修でお話を聞くことはありましたが、今まで専門機関と連携して直接助言をいただくことは無かった。今後機会があれば連携してみたい。
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	3		社会資源を利用する機会は設けている。	地域の公園に出かけることはあるが、一緒に何かをするという交流の機会は作れていない。地域のイベント(こんぱーちゃん、ぶんこ食堂)などにお手伝いとして参加して地域の大学生や高校生、他事業所の方との交流を行っている。
	27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	3		草加市の障害児通所支援施設連絡会への加入や参加をしている。	研修も実施してくれている機関のため、毎年必ず加盟して研修等も利用している。連絡会においては事業所として役員も担当している。
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	1		電子媒体を使った連絡帳で常にやり取りなどをしやすくしている。	ご利用時には、みらいダイアリーで活動の様子などを写真付きでお知らせしている。
	29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	4		ペアレントトレーニング自体は行なっていないが、児童の発達についての困りごとなどには面談や連絡帳を通じて常にやり取りや助言をしている。	基本は保護者から質問やアドバイスを求められた時にお応えしている。面談が必要な場合は適宜行っている。今後は保護者様同士の情報共有の機会や、保護者向けの研修会もできたらと考えている。
30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3	2		契約時に運営規程については一通り説明し、質問などがあれば答えている。	契約時に丁寧に説明している。	

## 2023年度(令和5年度)あある

## 【放課後等デイサービス】事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年3月1日

事業所名 あある

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	3	2		基本的に児童発達支援管理責任者と常勤職員がこの役割を担っている。	面談時には勿論、みらいダイアリーでもやり取りをしている。 必要に応じて電話で面談することもある。
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	3		未開催	今年度の保護者会は開催しませんでした。親子連動型イベントでの交流は行えた。
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	3	2		重要事項説明書等では窓口の説明をし、直接事業所に来ることにっては随時対応している。	できる限り問題などがあつた際に速やかに対応できるよう事業所としての態勢は整えているため、引き続き真摯に対応したい。
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	2		会報は年度時初めに配布、電子媒体での連絡帳を使用することで日々の活動は写真で伝えることができています。	今年度は会報の配布は無かったが、イベントのお知らせなどは電子媒体の利用や紙での配布を行った。またその様子を電子媒体のアルバム機能を利用しお知らせした。
	35 個人情報に十分注意している	5			個人情報の取り扱いについては、日頃から持ち出しのルール等を設けている。	個人情報の誓約書等は従業員にも取っており、職務違反となるような行為の無いよう、日頃からルールを設けるなどして取り扱いには注意をしている。
	36 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			視覚化や個別説明などを行ない、各児童の特性に合った支援を洗濯できるようにミーティングなどで確認をしている。	一人ひとりに寄り添った支援を考え、伝え方も配慮している。 引き続きそれぞれの理解を確認しながら伝えるように努めていく。
	37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	1		社会資源の活用はしている。	地域の方々に協力を得てイベントの開催やお手伝いをしていただいている。

2023年度(令和5年度)あある

【放課後等デイサービス】事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年3月1日

事業所名 あある

チェック項目		はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	2		各種書類は作成している。	毎月1回の避難訓練は行っているが、マニュアルの周知徹底はできていない。まずは全職員の周知を目指して取り組んでいく。
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5			年2回の避難訓練、と通報訓練を実施している。	年2回以上、消防署に避難訓練の届出をして訓練を行っている。地震・火事・水害など様々な状況を想定して、月一回の避難訓練を行っている。
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5			年に1回虐待防止の研修もしくは勉強会を行ない、職員に周知している。	年1回全職員が参加する虐待防止研修を社内で行っている。
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	2		身体拘束に該当する児童がいない。 非該当	現在は身体拘束の必要がある児童がいないが、今後必要な場合が考えられる場合は、保護者様と面談を行い個別支援計画書を更新して同意を得るようにする。
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	2		食物アレルギーについてはアセスメント時に必ず聞き取りをし、児童の一覧に手職員にも周知している。	現在は対象者がいないが、今後アレルギーの対応が必要な場合には、医師の指示書または保護者様からの情報協力のもとに、万全の対応ができるように整えていく。
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	1		ヒヤリハットを月ごとに集計して、会議にて検証などを行ない、再発防止に努めている。	ヒヤリハットを積極的に提出するようにして、会議で共有している。リスクマネジメントの研修を適宜行い、事故防止に努めていく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。